昔、男、**初冠し**て、（なら）平城の京、春日の里に、**しる**
サ変・用 接助 格助 格助 格助 四段・体
よし(して)、狩りに いに けり。その里に、いと
格助 ナ変・用 過去「けり」終 格助 格助 副詞
サ変・用「し」＋接助「て」という説もあり 過去「けり」終
存続「たり」体
なまめいたる女はらから住みけり。この男、**かいま見**
四段・用（イ音便） 四段・用 格助 上一・用
過去「けり」終
てけり。**思ほえ**ず、ふるさとに いとはしたなくて
完了「つ」用 下二・未 打消「ず」用 格助 副詞 形・ク・用 接助
過去「けり」已
ありけれ(ば)、心地**惑ひ**にけり。男の、**着**たり ける
ラ変・用 接助 四段・用 過去「けり」終 上一・用 過去「けり」体
完了「ぬ」用 格助 存続「たり」用
（かりぎぬ）
狩衣 の裾を**切り**て、歌を**書き**てやる。その男、
格助 四段・用 格助 四段・用 四段・終 格助
しのぶずりの狩衣を(なむ) **着** たり ける。
格助 格助 係助 上一・用 過去「けり」体
存続「たり」用

春日野の 若紫の すり衣
格助 格助
しのぶの乱れ 限り**知ら**れ ず
格助 四段・未 打消「ず」終
可能「る」未

(となむ)、**追いつき**て**言ひやり**ける。ついで
格助 係助 四段・用 接助 四段・用
おもしろきことともや**思ひ**けむ。
形・ク・体 係助 四段・用

みちのくの しのぶもぢずり たれゆゑに
格助
乱れそめにし 我ならなくに
下二・用 過去「き」体 打消「ず」未＋接尾語「く」
完了「ぬ」用 断定「なり」未 接助

(といふ)歌の心ばへなり。昔人は、かく いちはやき
四段・体 断定「なり」終 係助
格助 格助 副詞 形・ク・体
みやびを(なむ)しける。
格助 サ変・用
係助 過去「けり」体

昔、ある男が元服して、奈良の都の春日の里に、
（その土地を所領としている）縁があって、狩りに
行った。その里に、たいへん
若々しく、美しい姉妹が住んでいた。この男は、
（その姉妹を）覗き見た。
思いがけず、この古い都（旧都）に、たいへん不釣
り合いな様子であったので、
心が乱れてしまった。男は、着ていた
狩衣の裾を切って、（そこに）歌を書いて送った。
その男は、しのぶずりの狩衣を着ていた。

春日野の若い紫草で染めた
しのぶずりの乱れ模様のように
（美しいあなた方の姿に）私の心も限りなく乱れて
しまっています
と、すぐに詠んで送った。そのことの次第が
趣があることだと思ったのだろうか。

みちのくのしのぶもじずりの模様のように
誰のせいで（私の）心は乱れだしたのか、
私自身のせいではないのに（あなたのせいですよ）
という歌の趣意（伝えようとしている意味）で
ある。昔の人は、このように激しい
風流なふるまいをしていたのである。

©高校古文No.1授業ノート　https://kobun.info/